

## 第7回「福岡市市民公益活動推進審議会」議事録要旨

### 1. 開催日時

平成20年6月23日（月）14：00～16：00

### 2. 場 所

福岡市NPO・ボランティア交流センターセミナールーム

### 3. 議 題

- (1) 開 会
- (2) 新委員紹介
- (3) 審 議 等
- (4) 閉 会

### 4. 出席委員

池浦委員、小塩委員、陶山委員、信友委員、原田委員、藤永委員、森田委員、山根委員、吉田委員

### 5. 傍聴者数

なし

### 6. 議事概要

- (1) 市民公益活動活性化に向けた施策について
- (2) その他

### 7. 審議内容

- (会 長) 総合的なNPO・ボランティア情報の受発信基地として「あすみん」を役立てる事はできないか。
- (委 員) NPOとして活動する者としては、幅広い交流というよりも、同分野や関連事業を行う団体との交流を希望している。その上で交流の場を広げていくと、活動を市民につなげていけるとよいと思う。また、あすみんメルマガなどの情報が届いてはいるが、うまく利用できていない。即、役に立つ情報が少ない。
- (委 員) 情報を分散して伝わりやすくするために、地域毎に情報センターをつくり、「あすみん」が総合的なマネジメントを行うサブシステムを導入してはどうか。
- (会 長) 「あすみん」をNPOをサポートする情報センターにする。人を集めるのが目的でなく、インターネットや電話、FAX等の媒体で情報の受発信に特化する機能とし、場所はどこでもよい。情報機能を強化し、徹底的に情報提供でNPOを支援するとともに、双方向でNPOの声を聞き、調査研究することを目的とするような機能・役割にしてはどうか。
- (委 員) 情報を受発信する場所と活動する場所を別に考えてはどうか。活動場所は地域に分散する方が利用しやすい。

- (事務局) 当初、あすみんは、情報収集や提供を目的とし、実際の活動は身近なところでするという考え方であった。現在は特に夜間や土日の利用が多く、今以上の利用増加は難しいので、これからは機能的にどうあるべきかを考える必要がある。
- (会長) 情報収集・提供の機能と、相談や研修・講座などの二つの機能に大きく分けて考えてはどうか。後者は人が集まりやすいかどうかといった利便性が重視される。
- (会長) 今以上にインターネットで詳しい情報がとれるようになればよい。情報に特化した部分と人の出会いの場の部分で分けて考えてみてはどうか。
- (会長) あすみんが、NPOや市民からの問い合わせなどをすべて受け付ける総合窓口になればよい。公益活動の「104」のような存在に。
- (委員) 各区の市の施設で有効活用できそうな施設の一部をNPO活動の推進の場として利用することはできないか。例えば、再開発にともなう施設整備や小学校などの施設と一緒に建替えし、一体化するなどできないか。
- (委員) 1箇所しかないので、今の状況ではあすみん利用の競争が高い。NPOとしては活動の場に困っているので、無料・低料金使用できる市の施設で利用できる場所があれば、ぜひ活用したい。
- (委員) 各区の交流センターは使えないのか。
- (委員) NPOへの支援は、市民局を通してではなく、あすみんとNPOが直接結びつくことが理想である。次回の審議会では施策と実施を分けて整理した方がよい。あすみんの一番大切な機能はNPO立ち上げやNPOに参加したい人をコーディネートするなどのインキュベート機能ではないかと思う。それぞれのNPOの状況に応じて成長や自立を助ける機能も必要である。指定管理者は、NPOを支援するためのNPOという専門性があるので、その立場でどんな支援が必要か、どうつないでいくかという構造を常に考えていくことが重要である。また、「NPOの活性化に関するイメージ図」では、力がついてきた段階に応じて、助成・共働・融資と表現されているが、これにとらわれず、どの段階であってもそれぞれのNPOが求めるものをどう支えていくかということではないか。メニューであって、成長度合いとして決められるものではない。NPOの特性は自発的・自主的な活動であり、そこを踏まえて市がやるべき役割がなんなのか、原点に戻って整理すべきではないか。
- (委員) 市全体でのインキュベート機能が縦割りなので、横の連携を取り、繋げていけるともっと効率的に活用していけるのではないか。

## 8. 今後の予定について

今回の意見を踏まえ、事務局で再整理し、第8回審議会を3月頃開催する予定。